

JA共済における地域社会の課題解決に向けた取組み ～協同組合の視点から～

全国共済農業協同組合連合会

大場 貴之

1. JA共済の意義・役割

農村地域では、古くから地域住民がコミュニティを形成し、日常の農作業はもちろん、自然災害や火事などが発生した際には、コミュニティ全体で協力しながら救済・援助を行なってきた。

こうした歴史を背景に、「一人は万人のために、万人は一人のために」という相互扶助の精神のもと、各農村地域の農業者が自主的に設立・運営する組織として、JA（農業協同組合）やJA共済（農業協同組合による共済事業）は誕生した。

JAは、営農・購買・信用・高齢者福祉・健康管理・旅行・葬祭等、幅広い事業の展開を通じて、また、JA共済事業は、「ひと・いえ・くるま」の総合保障や地域貢献活動（病気や事故等の未然防止と万一の際の事後支援）を通じて、農家組合員の暮らしや、様々な地域課題の解決に貢献してきた。

なお、JA共済では、農業と地域社会の持続可能性を確保する観点から、重点的に取り組むべきSDGsの目標を明確にしつつ、地域課題の解決に向けた取組みを進めている。

2. 地域社会の課題解決にかかる取組み

（1）自然災害からの復旧・復興（レジリエンス）等にかかる取組み

気候変動等の影響により、自然災害が多発化・激甚化するなかで、地域社会のレジリエンス向上は、地域社会の重要課題である。

特に、大規模な自然災害においては、農家組合員は、被災直後における現場支援や、日常生活の早期復旧、営農活動の早期再開を必要とする。また、自然災害による被害を最小化するためにも、地域における被災経験を活かした防災・減災の取組みを推進していくことが、今後の地域社会のレジリエンス向上に資するものと考えられる。

J A 共済は、地域に根差した協同組合組織の一員として、また、J A グループの総合力を持って、幅広く自然災害からの復旧・復興等に取り組んできたことから、実際の被災事例に基づいた取組内容を紹介したい。

(2) 農業・地域振興等の地域課題解決にかかる取組み

J A 共済では、地域貢献活動と保障提供は車の両輪の関係にあり、相互に機能することにより「安全・安心」の輪を広げてきた。また、協同組合として「利益は組合員に還元する」ため、契約者のみでなく、広く組合員のニーズや福祉向上に応えるため健康管理・増進や災害救援、交通事故対策活動などの広範な活動を行ってきた。

さらに、2016 年度からは、J A グループ自己改革・第 27 回 J A 全国大会決議を踏まえ、「地域・農業活性化積立金」を創設し、従来から実施している地域貢献活動に加え、地域の実情に応じた「くらしや営農」に関する様々な活動に J A と一体となって取り組んでいる。

これらの多種多様な地域貢献活動の中から、地域の課題に応じた活動内容を紹介する。

3. 今後の課題

I C A (国際協同組合同盟) が、S D G s より早く、協同組合の活動指針として制定した「協同組合原則」(1995 年)において「地域社会の持続可能な発展」を謳っているなか、協同組合は、社会課題・地域課題に対して積極的に取り組んできた。

様々な地域社会の課題に取り組む協同組合であるからこそ、協同組合間で連携した取組みも展開されており、これまでの優良事例を紹介するとともに、今後の課題についても示したい。

また、協同組合という組織の垣根を越えて、同じく社会課題解決に積極的に取り組んでいる生保・損保等との連携についても示したい。

以上